



社会人・一般の人々の合唱

—その現状と課題—

日本合唱指導者協会理事長
辻 正行

はじめに

私は、このテーマを考えていくにあたって、まず、自分自身の合唱との関わりや考え方を示した上で、「社会人・一般の人々の合唱」について具体的に述べさせて頂こうと思う。また、自分の知らない合唱団について語るのではなく、私自身、長年にわたり様々な個性ある合唱団を指導させて頂いているという状況から、その中からいくつかの合唱団を例に挙げ、自分の指導する合唱団について語ることを中心にして「社会人・一般の人々の合唱」について記述したい。そして、それとともに、実際の現場で起こっている問題を取り上げていくことで「社会人・一般の人々の合唱」における現状と課題を考えていきたいと思う。

まず、合唱という分野は人々にとってどのような位置付けをなされているのだろうか？

例えば、合唱連盟が掲げているように「子供から墓場まで」…つまり、一生楽しみ、続けていけるものであるというもの。それは、子供から年配の方まで楽しめるという意味では生涯教育の最たるものであると言えるでしょうし、誰でも気軽に楽しく活動することができるということは、かなり重要な、また、大切な特長であると言えます。

私が合唱に飛び込んだのは、戦後まもなくの昭和23年の秋であり、きっかけになったのは高校時代に社会科の先生に合唱を教わったのが始まりでした。

その頃はちょうど「うたごえ」が盛んになってきた頃もあり、「うたごえ」が、全日本合唱連盟系統の合唱団と並行して日本の合唱を盛んにしてきたという考え方があります。私はそれを身をもって体験してきました。高校時代は合唱に夢中となり、生涯求めていくものと決意し、合唱をするために音楽大学に入学し、そこでも学生による合唱活動を行った。それと並行して、当時、清水脩先生が指揮しておられた一般団体である東京男声合唱団（その後、石井歓先生・故石丸寛先生が引き継いだ）や、作曲家の平井康三郎先生（当時・平井康喜…「平城山」の作曲家）が指揮しておられた「響友会」（鷹司利通さんとともに）にも、学生でありながら積極的に参加した。

音楽大学に通いながら、一般の合唱団に参加し、歌い、そして、二年生の時からは長門美保歌劇団、3年生からは藤原歌劇団の合唱を、卒業してからはNHKの東



京放送合唱団に所属し、合唱に明け暮れる毎日であった。以上のような自分の今までの合唱体験は、後述する合唱団の現状を考える一助となっていることは間違いない。

様々な合唱活動

それでは、合唱を様々な角度から分析して、考えてみたい。

まず、「うたごえ」を代表するような活動から発展してきている、イデオロギーが先行しているような合唱、音楽というのは思想がなければ音楽ではないとも私は考えているので、それも合唱活動のひとつであると思う。もちろん、政治的反発からくるものや、平和を歌うだけが音楽ではないとも思うが…。

また、合唱連盟のように、テクニック（技術）が先行したような音楽・合唱もあるし、これらとは違った形で合唱に取り組んでいるジュニアコーラス・おかあさんコーラスからシルバーコーラスまで様々なジャンルがある。この中で現在、日本で特に問題となっているのは、おかあさんコーラスの高齢化によるシルバーコーラスの増加である。シルバーコーラスといっても、合唱を続けてきた人達の集まりではなく、長年続けた仕事を定年退職した人達、また、子供から手が離れ、何かやらなければいけない…やりたいという思いの人達が集まつた、シルバーコーラスというか、老人大学・寿大学といったものに代表されるような集まり、そういったところではじめて合唱をやって、それが病み付きとなつてはじめた人達の合唱。それから、「童謡を歌う会」などのかつてよく歌つた曲を懐かしみ楽しく歌う人達の合唱、また、長年クラシック等の合唱を演奏してきた人達が、ある程度の年齢になって（シルバーエイジといえば現在60歳以上となっているが）、さらに合唱音楽を追求していきたいという人達の合唱。大きく分けて、シルバーコーラスも以上の3つに分けられる。

このような状況の中、同じように年齢を重ねているというだけで、それまでの合唱経験の全く異なる人達が、一緒に歌うということに問題があるわけで、暇つぶしでよいという人と高邁なる思想・理想を持ってやりたいという人、また、楽しめればよい（童謡などに代表されるような）という人達が、同じ受け皿の合唱団に所属できるはずもなく、このような点からも、シルバーエイジの合唱人の増加に伴う、

受け皿（合唱団）の充実という面も課題となる。

次に、合唱団数や団員数について現状を述べたいと思う。合唱というのは、2人で2つのパートを歌えば合唱になり、また、何千人・何万人でも合唱と言うことができる。一般団体は東京だけでも一万団体あると言われているが、そのうち



TCF合唱団 第九



今日の合唱活動—その現状と課題

9,800団体くらいが団員数30人以下だと言われています。その他の200団体くらいが50人～100人～150人というような合唱団、その他に「第九を歌う会」等に代表されるように、演奏会毎にメンバーを集めて合唱団を形成する150人～200人の合唱団が存在する。一般的な合唱団を人数的に分類してみると大体そのように区別されるのではないだろうか。

それから、一般・社会人の合唱団というと、職場の合唱、おかあさんの合唱、地域の合唱と分類される。その一方で、男声合唱・女声合唱・混声合唱というようにも分類できる。それでは、以上の観点から、私の指導している合唱団を通じて、「社会人・一般の人々の合唱」を具体的に説明していきたい。

私の指導している合唱団を通して

私が合唱講座修了生のグループ16名と一緒にスタートして、メンバーが増え続け、大きくなった「大久保混声合唱団」は創団43年になる。ある程度の音楽的・技術的レベルの高さ・コンクール等での実績・様々なジャンル・作曲家の曲を歌えるという楽しみを求めてメンバーが集まってくる団体である。実際、メンバーは、北は仙台から、西は京都から、「この合唱団で歌いたい」という希望を持って参加しており、どのようなメンバーを支え・維持するための魅力を持つ、そんなグループを目指し活動している団体である。また、大久保混声に在籍していたメンバーが、転勤などで各地に散らばり、いろいろな所から声を掛けてくれたことが、私の合唱活動が全国規模になった一因とも言える。静岡で指導している団体「静岡合唱団」は静岡の地域の合唱好きの集まり、気候風土に合わせて(?)比較的のんびりと何でもやる地域合唱団の典型である。東京のコロ・フォンテ、静岡の清水トゥルヴェールは15・16世紀のルネッサンス、バロック音楽を中心として、イギリスやイタリアのマドリガル、フランスのシャンソンなども歌っている、いうなれば「合唱・アンサンブルおたく」みたいな人達であり、ルネッサンス・バロックのような合唱の黄金時代とも言われる時代のアカペラの合唱を楽しみたくて集まっているグループである。

東京の女声合唱団であるクロスロード・レディース・アンサンブルは、普通の合唱団では物足りないOLや音楽の先生を中心としたグループ。広島県の呉市のコール・トロイメンはおかあさんを中心としたコーラスで、専業主婦でも音楽に前向きで意欲的な人やキャリアウーマンの集まり、おかあさんがほとんどであるにもかかわらず



第50回東京都合唱コンクール



ず、夜練習をしている50人程からなる大所帯の合唱団である。現在、日本のおかあさんコーラス一団体の人数は25人程度であるから、地方で50人のおかあさんが集まっているというのは大変珍しいことである。東京のクロスロード・フラウエン・コアも今までのおかあさんコーラスの枠にとらわれずに、昼に職場を持っているおかあさん達が参加する（できる）、夜練習するおかあさんコーラスを目指して活動している。

おかあさんコーラス

おかあさんコーラスで現在一番問題となっている事は、前述したがメンバーの高齢化である。それを解決するための雛形としての合唱団を紹介したい。ずっと歌い続けたいという人のために、月1回OGを集めて現役と合同練習をするという活動のおかあさんコーラス、ある程度の年齢に達したら、その合唱団を離れて、その合唱団の卒団生が中心になって作るシルバーコーラス。また、はじめから何歳になつても歌い続けられるという姿勢で創られるコーラス。東京のベル・バロンは月1回の通常練習の前に一時間半、OGを集めて現役と練習をする合唱団であり、また、藤沢市の湘南沙羅はある合唱団の卒団生が集まって結成されているグループ、コール・サファイアという合唱団は合唱歴は問うが年齢制限をせずに、いつまでも歌っていたいという合唱団で、練習場まで出てくる体力がある限り歌い続けたいという人達の集まりである。以上の合唱団は生涯学習と並行した生涯合唱を目指した団体であるとも言える。

男声合唱など

男声合唱に移って、静岡で活動している「三保メンネルコール」等の男声合唱団は、語弊があるかもしれないが、大学時代にグリークラブあるいは混声合唱団に所属していたメンバーによる「懐古」型の色合いが強く残る。また、全国的に盛んになってきているパパさんコーラスなどは「昔歌った曲を歌いたい」というようなメンバーが多く、結成されているのではないだろうか？

その他に、私の指揮しているクロスロード・シンガーズは、プロの演奏家（合唱団）として、スクールコンサートや地方公演等を行っており、声楽家・合唱の指導者などの中でも合唱が好きなメンバーが集まってアンサンブル（合唱）をしている。希望されれば、どこにでも行って演奏会を行う。いわゆる「プロ」の合唱団とは若干異なるかもしれないが、プロの音楽家によるアンサンブルということは間違いないなく、各地にファンも多く根付いている。

おわりに

今まで述べたように、合唱団にはいろいろな形態があり、歌う側のニーズに沿った様々な合唱団が出来つつある。そして、合唱というのは最も手軽に楽しめる文化活動のひとつである。我々はよく「戦争によって文化が奪われた」という言い方をするが、かのシュヴァイツァー博士は「文化が廃れるから戦争が起こる」と言っている。私はそれはとても素晴らしい言葉であると感じ、心にとめている。合唱は比較的手軽に接することができる上、素晴らしい文化活動・芸術活動であるわけであるから、今後も続けていかなければいけない。シュヴァイツァー博士の「文化が廃れるから戦争が起こる」という言葉を胸に刻んで…。